

開会式 9:55~10:00

代表世話人挨拶 稲葉 吉隆 (愛知県がんセンター 放射線診断・IVR部)

当番世話人挨拶 森口 理久 (京都府立医科大学大学院医学研究科 消化器内科学教室)

一般演題1 10:00~10:40

「肝動注リザーバー (HCC) ①」

座長 佐藤 洋造 (愛知県がんセンター 放射線診断・IVR部)

1-01 門脈腫瘍栓を有する進行肝細胞癌に対して肝動注化学療法を中心とした集学的治療で長期生存が得られた一例

岸田 勇人 (奈良県立医科大学 放射線・核医学科, IVRセンター)

1-02 脈管浸潤を伴う肉腫様肝癌に対して肝動注化学療法 (New FP) を主体とした集学的治療で奏効した2例

下瀬 茂男 (久留米大学医学部 内科学講座消化器内科部門)

1-03 肝外側区域7cm多発、肝静脈腫瘍栓を伴う破裂性肝細胞癌に対し肝動注化学療法を主体とした集学的治療にて根治的切除を行えた症例

中尾 昂史 (地方独立行政法人筑後市立病院 消化器内科)

1-04 高度動脈・門脈シャントを伴った多発肝細胞癌に対してリザーバー肝動注療法が奏効した一例

松本 武士 (奈良県立医科大学医学部 放射線・核医学科, IVRセンター)

一般演題2 10:40~11:10

「肝動注リザーバー (HCC) ②」

座長 小尾 俊太郎 (帝京大学ちば総合医療センター 内科)

2-01 当院での局所進行肝癌に対する肝リザーバー動注化学療法とSorafenib治療症例の予後の検討

藤井 秀樹 (京都第一赤十字病院 消化器内科
/ 京都第一赤十字病院 放射線科)

2-02 高度脈管侵襲を有するStage IV-A 進行肝細胞癌に対するNew FP療法とソラフェニブの多施設後ろ向き比較研究

岩本 英希
(久留米大学 内科学講座消化器内科部門/医療法人 岩本内科医院)

- 2-03 分子標的療法の時代における肝動注化学療法の役割を明らかにするための、
当院での進行肝細胞癌に対する治療成績の検討
新関 敬（久留米大学病院 消化器内科）

■ **教育講演 11:10～11:55** 《共催：日本ベクトン・ディッキンソン株式会社》

座長 藤田 直久（京都府立医科大学 感染制御・検査医学）

演者 「**血流感染症の診断・治療・予防**」

大曲 貴夫（国立国際医療研究センター病院）

■ **ランチョンセミナー1 12:10～13:10** 《共催：バイエル薬品株式会社》

座長 山下 竜也（金沢大学 先進予防医学研究センター）

演者 「**実臨床における治療の現状と問題点**」

小尾 俊太郎（帝京大学ちば総合医療センター 内科）

■ **特別企画1 13:20～14:50**

「**動注リザーバー**」

座長 上嶋 一臣（近畿大学医学部附属病院 消化器内科）

松枝 清（がん研究会有明病院 画像診断部）

演者 「**進行肝細胞癌における分子標的薬治療と動注化学療法の使い分け**」

小笠原 定久（千葉大学大学院医学研究院 消化器内科学）

「**転移性肝がんに対するリザーバー肝動注**」

新槇 剛（静岡県立静岡がんセンター IVR科）

「**リザーバー留置**」

竹内 義人（福知山市民病院）

「**システムトラブルの管理**」

関 裕史（新潟県立がんセンター新潟病院 放射線診断科）

「**肝動注リザーバー療法に関するガイドライン2018**」

米虫 敦（関西医科大学 総合医療センター 放射線科）

特別講演1 14:55～15:45 《共催：エーザイ株式会社/M S D株式会社》

座長 高口 浩一（香川県立中央病院 肝臓内科）

演者 「急速に変貌するIntermediate Stageの治療戦略」

工藤 正俊（近畿大学医学部 消化器内科）

一般演題3 15:50～16:30

「肝動注リザーバー（HCC）③」

座長 板野 哲（医療法人いたの会 久留米中央病院）

3-01 肝細胞がんに対するSorafenib治療後のリザーバー肝動注化学療法についての検討

新槇 剛（静岡県立静岡がんセンター IVR科）

3-02 Child-Pugh分類Bの進行肝細胞癌を対象とした肝動注化学療法における肝機能推移の検討

田北 雅弘（近畿大学医学部 消化器内科）

3-03 Fontan術後肝疾患に発生した肝細胞癌に対しLow-dose FP療法及び放射線療法で治療を行った一例

城野 智毅（久留米大学医学部 内科学講座消化器内科部門）

3-04 肉眼的腫瘍塞栓を有する肝細胞癌に対する肝動注リザーバー療法と重粒子線治療による集学的治療

渋谷 圭

（群馬大学医学部附属病院 画像診療部／群馬大学重粒子線医学センター）

一般演題4 16:30～17:10

「転移性肝腫瘍肝動注」

座長 竹内 義人（福知山市民病院）

4-01 同時性多発肝転移合併大腸癌術後にbridging therapyとして肝動注療法を施行した2例

茶谷 祥平（愛知県がんセンター 放射線診断・IVR部）

4-02 肝動注化学療法とRFAを併用し経過良好な大腸癌肝転移症例

板野 哲（医療法人いたの会 久留米中央病院）

4-03 肝動注化学療法にBevacizumabによる全身化学療法の併用が有用であった大腸癌多発肝転移の1例

長谷部 匡毅（市立福知山市民病院 腫瘍内科
／市立福知山市民病院 臨床研修センター）

4-04 全身化学療法、CDDP肝動注に不応の子宮癌肝転移に対してDocetaxel肝動注を行った2例

関 裕史（新潟県立がんセンター新潟病院 放射線診断科）

■ 一般演題5 17:10～17:30

「肝動注その他①」

座長 山上 卓士（高知大学医学部 放射線医学教室）

5-01 いわゆる‘3本バラバラ’型の肝動脈を安全に一本化する予測ツールとして perfusion CTはおそらく有用であろう

佐藤 壘（静岡県立静岡がんセンター IVR科）

5-02 肝癌に対する経動脈的治療におけるマイクロカテーテル挿入可能ポートの開発

佐藤 健司（奈良県立医科大学 放射線・核医学科、IVRセンター）

■ イブニングセミナー 17:40～18:40 《共催：ポストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社》

「新たな展開を迎える肝がん治療と TACE の在り方」

座長 板野 哲（医療法人いたの会 久留米中央病院）

稲葉 吉隆（愛知県がんセンター 放射線診断・IVR部）

演者 川村 祐介（虎の門病院 肝臓センター 内科）

西尾福 英之（奈良県立医科大学 放射線・核医学科、IVRセンター）

喜多 竜一（大阪赤十字病院 消化器内科）